

まえがき

パンジャービー語またはパンジャープ語と呼ばれる言語は、パキスタンとインドにまたがるパンジャープ地方で話されている、インド・ヨーロッパ語族のインド語派に属する言語である。パンジャープという名称は、ペルシア語で「5」を意味する「パンジ」と、「水」を意味する「アープ」に由来し、インダス水系の「5つの川」が流れる大地を表す。パンジャープ地方の西側を中心とした大半の地域はパキスタンに属し、東側の一部がインドに属し、それぞれ州を形成している。パンジャービー語は、パキスタンでは、その人口のほぼ半数の約8千万人が母語とする最大の民族語である。インドでは、約3千万人の母語であり、憲法にも「主要言語の一つ」と記載され、パンジャープ州の公用語になっている。インドにおける日系企業の拠点が集中している首都デリーとハリヤーナー州にもパンジャービー語を母語とする人は多く、それぞれの地域の公用語の一つになっている。パンジャービー語の母語話者は、パキスタンとインドの両国内に限らず、移民として世界各地にコミュニティを形成している。英国だけでも約230万人、全世界では700万人以上のパンジャービー語の母語話者が、移民として存在すると推測される。

パンジャービー語は、パキスタンではアラビア系のシャームキー文字で表記され、インドではインド系文字の一つであるグルムキー文字で表記される。パンジャービー語を学習する人が利用できるように、それぞれの表記による入門書・文法書・語彙集・読本などが、日本でもこれまでに出版されている。本辞典は、グルムキー文字で表記した「パンジャービー語・日本語辞典」と「日本語・パンジャービー語小辞典」である。インド系文字の中ではデーヴァナーガリー文字の既習者が多いという学習環境を考慮し、「パンジャービー語・日本語辞典」の見出し語についてはデーヴァナーガリー文字による表記も併記した。

パンジャービー語は、他のインド・アリア諸語と同じく、古い歴史を有し確固たる命脈を保持している民族語であるが、ウルドゥー語やヒンディー語などと比べると公用語としての歴史は浅く、標準パンジャービー語による教育の整備も現在その途上にあると言える。つづりの表記や標準文法などの統一については依然不確定な要素も多く、今後のパンジャービー語の教育・研究の発展とともに成果が得られるものと思われる。当然のことながら、日本においてはパンジャービー語の教育が公的な場所で行われることは稀で、その研究も緒に就いたばかりである。本辞典は、そのような歴史の中で、パンジャービー語の研究に携わるパンジャープ州内外の大学その他の研究機関や、個々の研究者たちの挙げた成果を参考にして編纂したものである。

本辞典の編纂については、その手順の構築に始まり、フォントの整備から版下の作成にいたるまで、その過程のすべてを東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の町田和彦氏にご尽力いただいた。これまで町田氏がインド系文字を用いる諸言語の辞書編纂のための基盤として開発された基本構造を生かし、例えば発音表記では、デーヴァナーガリー文字を用いたヒンデ

イー語の辞書における潜在母音の発音の有無の表記法をそのまま採用し、パンジャービー語特有の声調については新たに表記法を加えるなど、グルムキー文字表記によるパンジャービー語の辞書に適するプログラムを作成していただいた。また、文部科学省の COE 拠点形成・特別推進研究(COE)「アジア書字コーパスに基づく文字情報学の創成(GICAS)」(2001-2005 年度、研究代表:ペーリ・バースカララーオ氏)のプロジェクトの一つである辞書編纂研究会(主査:町田和彦氏)においては、内田紀彦氏、野口忠司氏、高島淳氏、峰岸真琴氏、星泉氏、澤田英夫氏に多くの面でご指導いただいた。本辞典の出版を担当していただいた三省堂編集部の柳百合氏には構成と内容について貴重な助言をいただいた。本辞典の出版のためにご尽力くださった方々に、心から感謝申し上げたい。

2015 年 3 月 23 日

岡口典雄